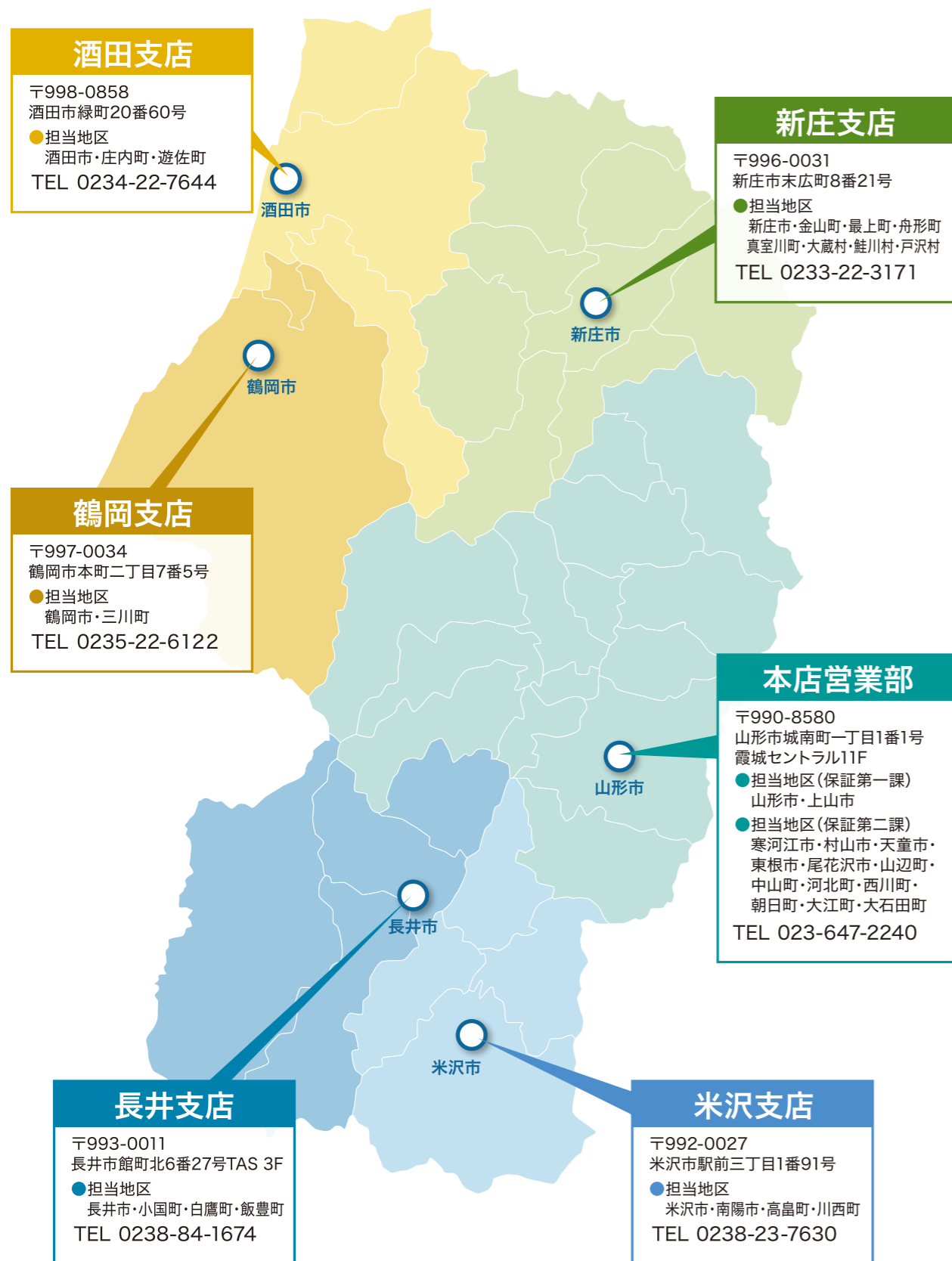


営業店のご案内

お近くの信用保証協会へお気軽にどうぞ



企業のちかくで、
事業のちからに。

山形県信用保証協会のご案内



企業のちかくで、事業のちからに。
山形県信用保証協会

<http://www.ysh.or.jp/>

山形県信用保証協会 検索



山形県信用保証協会

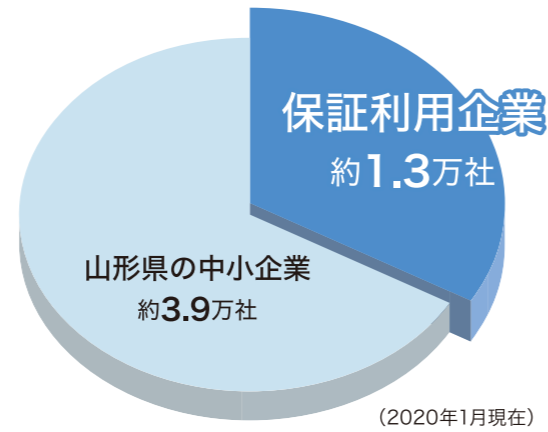
地域とともに ～since1949～

山形県信用保証協会は、中小企業・小規模事業者の皆さまが、金融機関から事業に必要なお金が借りやすくなるようサポートする公的機関です。

プロフィール

認可(創立)	昭和24(1949)年8月24日
人 格	信用保証協会法に基づく特殊法人
基 本 財 産	237億円 (2019年3月末現在)
役 職 員	常勤理事…3名 常勤監事…1名 職員…98名(男性55名、女性26名、派遣職員17名)(2020年1月現在)

県内中小企業・小規模事業者のうち
1/3以上の方々から
ご利用いただいております。



基本理念

わたしたちは、信頼される信用保証を通じて、
地域を支える中小企業者の
信用力の創造と経営力の向上のために、
ともに考え、ともに歩んでまいります。

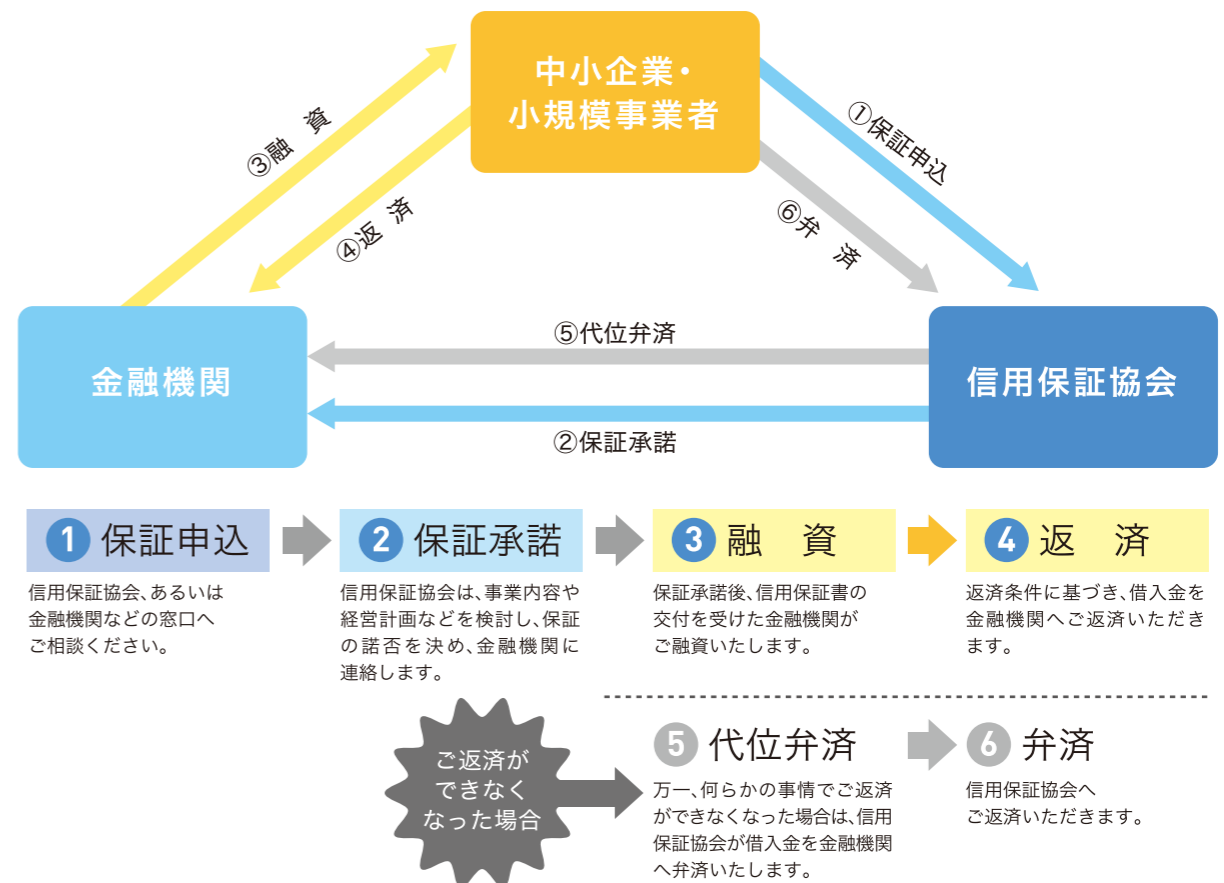
基本理念は、組織の使命、存在意義、目指す姿、目標などを表したものです。

地域の経済状況と金融環境の中における、当協会の使命や存在意義を深く認識し、信頼される信用保証を通じて、地域を支える中小企業者の信用力の創造と経営力の向上のために、中小企業者、金融機関、地方公共団体など、あらゆる関係先とともに考え、ともに歩んでいくことを目指して、上記のとおり「基本理念」を定めました。

沿革

昭和24(1949)年	8月24日	財団法人山形県信用保証協会 設立認可
	9月22日	業務開始 本所・山形連絡所を山形商工会議所内に設置(山形市旅籠町1046) 米沢、新庄、鶴岡、酒田に連絡所を設置
昭和29(1954)年	6月24日	信用保証協会法に基づく組織変更認可
	7月10日	特殊法人に組織変更登記
昭和32(1957)年	2月25日	本所を山形市仮庁舎内に移転(山形市旅籠町1045-1)
昭和33(1958)年	10月 1日	長井連絡所を長井商工会内に設置(長井市小出2089)
昭和34(1959)年	9月 1日	鶴岡・酒田連絡所を支所に昇格
昭和35(1960)年	12月27日	米沢・新庄連絡所を支所に昇格
昭和37(1962)年	9月12日	本所を県民会館内に移転(山形市旅籠町285)
昭和38(1963)年	6月22日	本所を移転(山形市旅籠町2-2-14)
昭和43(1968)年	10月 1日	長井連絡所を支所に昇格
昭和58(1983)年	12月 5日	本所を山形県商工会館内に移転(山形市緑町1-9-30)
平成12(2000)年	12月18日	本所を現所在地に移転(山形市城南町1-1-1)
平成18(2006)年	7月 1日	「本所」「支所」から「本店」「支店」に名称変更
令和元(2019)年	8月24日	創立70周年

信用保証制度のしくみ



信用保証協会の取組み

中小企業・小規模事業者を応援します

金融機関からの資金調達をサポートします。

信用保証協会が公的な保証人となることで、金融機関からの資金調達が高まります。

長期保証で資金繰りを円滑にします。

保証利用で長期資金の導入が容易になり、資金繰りが安定し、事業経営に専念できます。

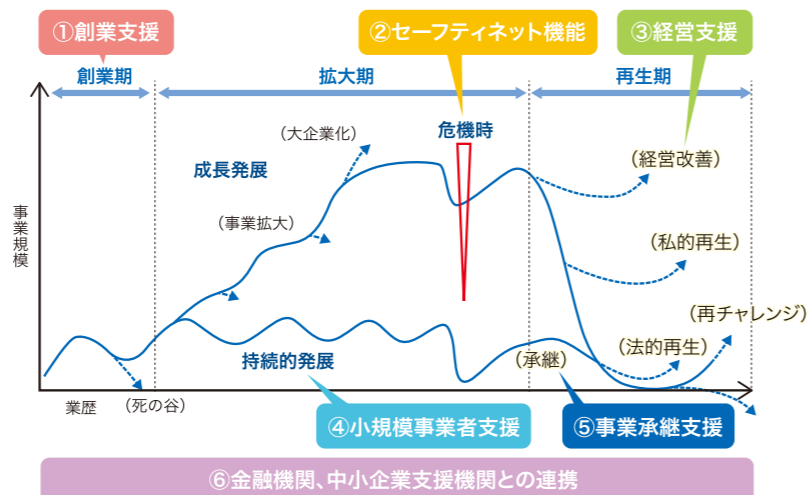
さまざまなライフステージに応じて支援します。

皆さまの様々なニーズにお応えできる多様な保証制度を用意しています。また、ライフステージなどに対応した支援に取り組んでいます。【①～⑥】

① 創業支援

～创业者のための支援パッケージ～

- 「創業前」の様々な課題解決や計画作成のお手伝いなどゼロから支援しています。
- 「創業時」には、保証付き融資で創業資金が借りやすくなります。さらに県の「開業支援資金」を使えば低利かつ保証料負担ゼロになるなどのメリットがあります(一部を除く)。
- 「創業後」の様々な課題に応えるため、フォローアップしています。



② セーフティネット機能 ～国の支援施策に連動～

- リーマンショックや東日本大震災の対応として、国の施策に連動し、資金繰り支援に迅速かつきめ細やかに取り組みました。
- 将来に向けても「危機関連保証」を創設、大規模な経済危機、災害等により著しく信用収縮が生じた場合でも迅速に資金調達を支援します。

③ 経営支援 ～全営業店に中小企業診断士を配置～

- 経営相談会
毎月開催しているほか、県中小企業診断協会や県よろず支援拠点とも連携して開催しています。
- 専門家派遣事業
中小企業者の課題に即した専門家を県内外から派遣しています。

- 経営支援費用補助
経営改善支援センターの「経営改善計画策定支援事業」等を利用する場合、費用の一部を補助しています。
- 再生支援
県中小企業再生支援協議会等との連携を密にして、抜本再生案件への協力を行っています。

④ 小規模事業者支援(拡充)

～地域を支える小規模事業者をしっかりとサポート～

- 「ミニカードローン」を創設
小規模事業者のタイムリーな資金調達のため創設しました(H26年度)。
- 県独自の小規模事業者向け保証「県特」を拡充
保証上限2,000万円⇒3,000万円(H28年度)
- 「小口零細」を拡充
保証上限1,250万円⇒2,000万円(H30年度)

⑤ 事業承継支援

～地域経済の活力を守るために～

- 「事業承継セミナー」を開催
県、県事業引継ぎ支援センターなどと連携、県内各地区で開催し、例年約100名の参加があります(H27年度～)。
- 「特定経営承継関連保証」を創設
事業承継時の代表者個人による株式取得資金等を保証するこの制度を全国で初めて取り扱いました(H30年度)。

⑥ 金融機関、中小企業支援機関との連携 ～当協会の強み「連携」をさらに強く～

【金融機関との連携】

- 金融機関職員信用保証業務研修会
県内金融機関職員の方を対象に実施、受講者が延べ1,000人を超えました(H2年～)。
- 金融機関との勉強会、懇談会を定期的開催
定期的に顔を合わせる機会を設けることで、建設的な意見交換や円滑なコミュニケーションに繋がっています。
- サポート・ミーティング
独自の取組みとして保証時に限らず、中小企業の課題の早期発見、解決に向けて、メイン金融機関等と対話、連携を図っています(H19年度～)。



「金融機関職員信用保証業務研修会」の様子

【中小企業支援機関との連携】

- やまがた中小企業支援ネットワーク会議
年2回の会議と個別企業を支援する「経営サポート会議」を通じて、地域全体の経営支援・再生支援の充実につなげています(H24年度以降)。
- 県中小企業診断協会、県よろず支援拠点、東北税理士会山形県支部連合会と連携
それぞれと覚書等を締結し、「専門家派遣事業」の立上げや税理士連携短期継続型保証「税理士たんけい」を創設するなど、中小企業支援のため連携を深めています。

メッセージ

企業の皆さまからいただきました

message

(株)天童木工



日本を代表する木工メーカー

保証協会様には以前からお世話になっております。必要資金を保証してもらうことにより、当社の発展を支えていただきました。また、事務所には机等も納入させていただきました。最近も「OSAKAビジネスフェア」をご紹介いただき、そこから関西の信用保証協会様からの新たな受注につながりました。保証だけにとどまらず、多面的に企業支援をいただき、大変感謝しております。

(株)片桐製作所



冷間鍛造のパイオニア

創立70周年誠におめでとうございます。貴協会が、信用保証を通じて中小企業の振興に果たす役割は極めて大きく、個人創業からスタートした弊社が今日を迎えることが出来たのも、貴協会はじめ地域の御支援があってこそです。今般、ボーダーレスで経営環境は目まぐるしく変わっていますが、地域経済の発展を担うのは地場産業が中心です。貴協会ますますのご発展と共に、今後も中小企業振興への御支援を切にお願い申し上げます。

(株)庄内シャーリング



金属加工で時代をリード

リーマンショック等金融危機発生に伴い、中小企業の存亡が問われる時、金融円滑化の要となる保証協会の役割は大きく、政府系金融機関と連携しての中小企業サポートが我々中小企業を存続させたと思います。当社もリーマンショック時には利用させて頂き大いに助けられました。現在は経済は安定していますが、いついかなる経済状況の変化があるかを考慮して様々な制度を利用させて頂いております。社債の様な期日一括の制度は、設備投資の頻繁にある当社の様な業態では大いに助かっています。金融機関と話し合いながら、協会とのつながりを持っておく事は、経済状況の変化に対応する重要な手段だと思います。今後共協会とのつながりを大切にしていきたいと思っております。

職員座談会

私たちが考える 保証協会と山形のこれから

当協会がこれまで果たしてきた役割や実績、またこれからの保証協会と山形の未来について、10年後、20年後、そしてその先へと今後中核を担っていく世代から5名の職員がそれぞれの視点で語りました。

仕事に取り組む中で日々実感するやりがい

武田 私は5年目になりますが、金融機関の方へ資金調達の方法や保証制度のメニューを提案させていただくと、「そんないい制度があるんですね。教えてくれてありがとうございます」と仰っていただいたり、企業の社長さんから「長く保証協会を利用させていただいていますが本当に助かっています」と言葉をいただいたりします。そんな風に自分たちの仕事に対して感謝していただけることが、やりがいにつながっていますね。

小松 私の場合は、資金調達方法の提案に加えて、お客様の課題解決に向けて支援することにやりがいを感じています。企業の方が抱える課題解決に向けた施策をコーディネートし、その成果が出た時に資金繰り支援に留まらない保証協会としての付加価値をつけられたかなと感じます。

内外で支えてくれるかけがえのない存在

齋藤 入協3年目なんですけど、3人の同期とは今でも年に1〜2回集まって近況報告し合っています。社会人として同じステージにある人たちと悩みを打ち明け合ったり話ができるということ自体が本当にありがたいですし、配属はバラバラですけど、「遠くで同期が頑張っている」と思うと励まされますね。



齋藤 由佳 酒田支店 主事(入協3年目)

小松 私は保証と経営支援両方の業務を行う中で、「正常化(リファイナンス)」に力を入れているんですが、やはり自分た

ちではどうしても手の届かないところやノウハウが足りないところがあるんですね。それを補ってくださる外部の支援機関の方や専門家の方々というのは貴重な存在ですし、中小企業に寄り添い親身になって支援していただけるという面でも本当に感謝しています。



小松 慎 米沢支店 主査(入協11年目)

前田 我々信用保証協会にとって、信用保証制度を語る上でも欠かせないパートナーが金融機関だと思っています。中小企業のニーズを最前線で汲み取ってきてくださるからこそ申し込みをもらえているわけで、もちろんお互いの立場もありますけど、協議したり落としどころを模索しながら良い方向に持っていけた時にすごくやりがいを感じますね。そしてその良好な関係というのは、私たち現役だけにとどまらず、先輩方OB・OGが築き上げてくださったもの。そこにあぐらをかくことなく、より「進化・深化・新化」していく必要があると考えています。

協会の存在意義を感じさせてくれた言葉

石井 私は長年保証の現場を担当させていただいたことで、金融機関の多くの方と出会い、そして部署が変わってもまた同じ方に出会ったりと、まさに人と人のつながり、そしてお互いに信頼関係を築きながらお客様の案件を作り上げてこれたことをすごくありがたく思っています。それから4〜5年振りに伺ったお客様に、「あの時のアドバイスのおかげで今がある」といった言葉をいただいたことも本当にありがたかったですし、やっぱり直接お客様とお話させていただく機会というのは自分にとって必要なものなんだな、と感じました。



石井 満貴 代位弁済課 次長(入協28年目)

齋藤 私も実地調査などでお客様のところへ直接伺う機会があるんですが、「過去の不景気や資金対応が必要だった時、協会の保証のおかげで乗り越えられた」と感謝の言葉をいただいたことがあって、協会の70年という歴史と先輩方が作ってくださった功績を思い、うれしくなりました。自分もいつかそんな風に感謝される存在になっていきたいです。

信用・信頼を得るために

齋藤 内部の方とも外部の方とも、会話を重ねるなどコミュニケーションを図り、話しかけてもらいやすい関係をつくるのが信用・信頼につながるのかなと思っています。

石井 実際、お客様や金融機関の方と何でも相談しやすい関係を築くことでいろんな案件を持ち込んでいただけるようになると思うし、それで終わりではなく、その後どういう支援をしていけるかというところまで考えながら、寄り添う心で接していけたらいいですね。

小松 その「寄り添う」というのも、単純に相手に対して「そうですね」と言うだけじゃなく、時に厳しさも必要なのかなと。もちろん相手の立場に立った言葉づかいで伝えるように気をつけていますが、お客様のことを真剣に考え、「気づき」を与えられたり、「やる気」も促せていけたらいいなと思っています。

前田 コミュニケーションをうまく図るために必要なのは、



前田 陽一 企画推進課 課長(入協25年目)

「誠実に対応すること」「嘘をつかないこと」「先送りしない・後回しにしない」こと。そういった対応が結果的に信用・信頼を生むんじゃないかな。

それぞれが描く協会の未来・山形の未来

小松 中小企業の支援というものが、山形の未来のために、ひいては地域貢献につながっていくと考えています。70周年を機に「連携・支援・貢献」というキャッチコピーが生まれましたが、「山形の未来のために」というのはまさに「貢献」の部分だと思うんですね。では「貢献」をどう大きくしていくかということ、関係機関との「連携」をより一層深めながら、協会ができる「支援」を大きくしていくことなんだろうな、と。



武田 良馬 保証第一課 主事(入協5年目)

武田 あと保証協会を取り巻く環境というのは絶えず変化していて、その変化への柔軟な対応が今、保証協会に求められていることも日々痛感しています。なので、常にアンテナを高くして、そこから得た情報を日々の業務に活かしながら、同時に山形の中小企業を良くしていくことにつなげていけたらベストだなと思います。

前田 保証協会の基本的な業務は、中小企業に寄り添った資金繰りの支援です。保証、経営支援、回収などそれぞれ担当しているものがあると思いますが、皆でスクラムを組み、逃げることなくブレずに「ONE TEAM」で日々やっていきたいですね。そして創業支援や事業承継支援などにも積極的に取り組んでいくことが、山形の未来につながると感じています。皆さんの頑張りは、保証が4年振りに前年を上回るなど、30年度の決算にも表れていたと思いますし。

石井 山形の協会には20代の職員が多くいて、次の80周年でちょうど働き盛りの30代を迎えるんですね。この若い世代が新たなことに挑戦しながら、ぐっと成長していく姿を期待しています。皆で頑張っていきましょう！

一同 拍手 (座談会実施日 令和元年10月25日)